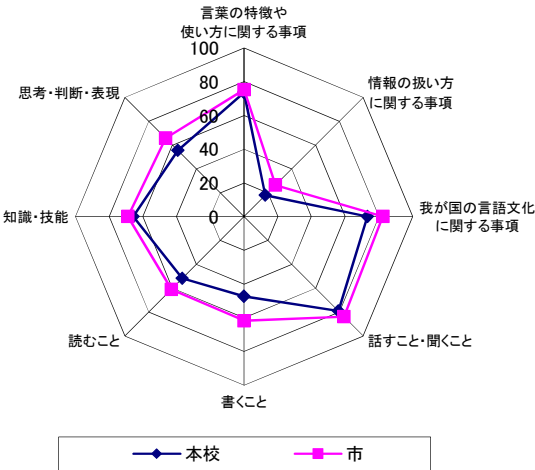


宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.7	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	17.9	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	73.2	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	79.2	83.9	84.2
	書くこと	47.3	61.7	64.5
	読むこと	51.8	60.9	61.0
観点別	知識・技能	65.7	68.8	70.3
	思考・判断・表現	55.5	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

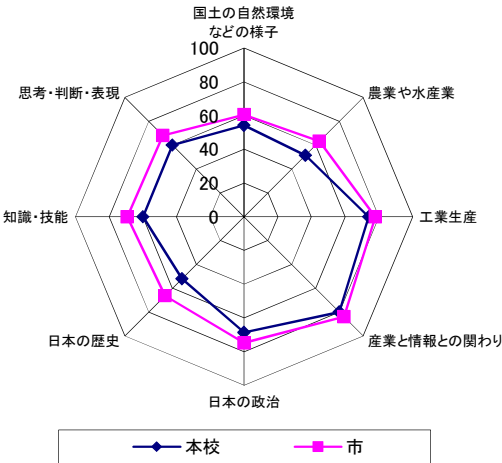
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○漢字を正しく読む問題の正答率が高い。新出漢字を学習する際に、字が表す意味や熟語も併せて学習した成果だと考えられる。 ●敬語について理解し、正しく使う問題の正答率が低い。尊敬語や謙譲語の理解に課題があると考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・丁寧語や尊敬語、謙譲語などの敬語について正しく理解できるような活動を取り入れていきたい。授業中の発問や活動を工夫するとともに、日常的に正しく敬語を使うことができるように指導や声掛けをしていきたい。 ・日本語の特徴でもある敬語について、敬語を使うことの美しさやよさを実感できる活動を取り入れることで、時と場に応じた言葉遣いができるようにしていきたい。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題や、目的に応じて文章を簡単に書く問題の正答率が低い。資料から、必要な情報を読み取る力に課題があると考えられる。	・必要な情報を読み取り、整理する力を身に付けられるようにしたい。段落ごとの要点を確認し、簡潔に要約するなどの活動を取り入れる。 ・様々な情報を整理できるようにするため、国語の授業にとどまらず、資料を読み取る活動を取り入れたり、要点を整理して資料を作成したりする活動を取り入れる。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●和語、漢語、外来語に関する問題の正答率が低く、語句の由来の理解に課題があると考えられる。	・語句の由来や特徴について理解できるようにするため、身の回りの語句が和語や漢語、外来語のどれにあたるかを考える問題に繰り返し取り組む。 ・新出漢字の学習や語句の意味調べ、読書活動等の活動を通して、語彙力を豊かにすることで、語句の特徴や成り立ちなどに気付き、言語文化について理解を深められるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○意図に応じた質問の工夫を問う設問の正答率がやや高い。話合いの中で、自分が何を聞きたいのか考えながら質問するように意識付けしてきた成果であると考えられる。 ●話の内容を捉えているかどうかを問う設問の正答率が低い。話の内容に関して確認をしたり疑問点を抱いたりせず、内容を正確に捉えることに課題があると考えられる。	・目的意識をもった話合い活動ができるようになるために、質問の意図を考えながら相手に質問したり、答えたりできるような活動を継続的に取り入れる。 ・相手の話を聞くときには、内容を理解する力を付けるため、メモをとったり、分からないことを質問したりして内容を把握する活動を授業の中に取り入れる。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●叙述をもとに文章の内容を捉える設問の正答率が低い。文章の大まかな内容は理解できるが、細かい内容を読みとることに課題があると考えられる。	・文章全体の内容だけではなく、段落ごとの内容を理解する力を身に付けさせるため、授業において細かなまとまりや段落ごとに内容を要約をする活動を積極的に取り入れる。分からない語彙はその都度調べて内容理解に結びつけたい。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●複数の情報の関係を理解し、目的に応じた文章を書く設問の正答率が低い。情報を関連付けたり、目的を意識したりするなどの条件に沿って、文章を作成することに課題があると考えられる。	・情報を結び付けて目的に沿った文章を書く力を身につけるため、授業の中で自由作文だけではなく、情報から欲しい内容を読み取り、文字数や内容を制限するなど、一定の条件下で文章を書く活動を積極的に取り入れる。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	54.2	60.5	65.8
	農業や水産業	51.5	63.3	66.0
	工業生産	73.9	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	80.0	83.8	76.6
	日本の政治	68.6	74.9	74.1
	日本の歴史	52.0	66.3	68.3
観点別	知識・技能	59.9	69.3	71.4
	思考・判断・表現	60.0	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

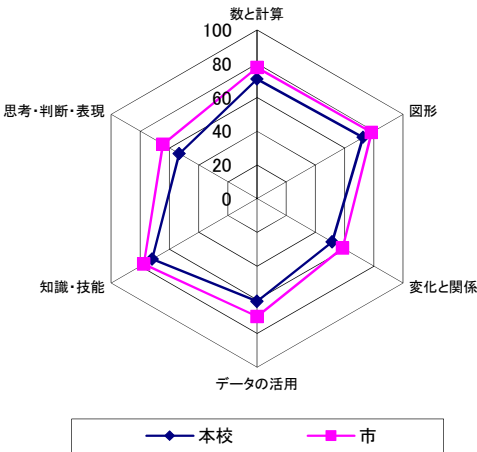
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	平均正答率は、市の平均より低い。 ○季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る問題の正答率が高い。 複数の資料から分かることを読み取る活動に取り組んできた成果であると考えられる。 ●海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成について、地図をもとに考えて表現することに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・複数の資料に関連させて分かることを考えたり説明したりする力を育むために、授業の中で、資料から読み取ったことをもとにして自分の考えを説明する活動を継続して行う。 ・国土の構成の基本的な内容を何度も復習し、わが国土はどのような構成になっているのか、自分の言葉で説明する活動を積極的に取り入れる。 ・地名については、地図帳を使って確認することで、その位置だけではなく、日本との距離やその周辺と関連付けて捉えるようにするなど、地図帳の活用 の機会を意識的に増やすようにしていく。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均より低い。 ●日本の主な食料自給率について問う問題の正答率が低い。小麦等の主要な食料自給率の理解に課題が見られる。	・グラフから読み取った数値をもとに品目を推測する力を育むために、自分の食生活と日本の食料自給率とを結び付ける活動を積極的に取り入れる。買い物に行ったときに野菜や肉の生産国はどこののか、食品パッケージに記載されている原産国を意識させることを通して、日本の食料自給率や農業・水産業の現状について考えさせるようにする。
工業生産	平均正答率は、市の平均より低い。 ○自動車の製造工程について確認する問題の正答率が高い。授業の中で映像資料や写真資料を多用して、製造工程ごとに詳しく学習した成果であると考えられる。 ●日本の主な輸出品・輸入品についてグラフに合う項目を選ぶ問題の正答率が低い。日本の工業生産の輸出入の状況をグラフと共に考えることに課題が見られる。	・自動車の製造工程とともに、そこで働く人が品質改善や効率化のためにたくさんの工夫をしていることの理解に繋げるため、写真・映像資料や社会科見学などを多く取り入れ、実体験と結びつけた活動を多く取り入れる。 ・工業製品の主な輸出品、輸入品をグラフから読み取る力を育むため、グラフから分かることを自分の言葉で表現する活動を多く取り入れる。また、友達の意見を聞くことで、日本の主な輸出入の状況の更なる理解に繋げたい。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均より低い。 ○産業における情報活用の現状について問う問題の正答率が高い。実生活と関連させて考える活動に取り組んできた成果であると考えられる。 ●情報の発信と受信の注意点について考える問題の正答率は低い。インターネットを使用する際の情報モラルの大切さについての理解について課題があると考えられる。	・情報が各産業でどのように活用されているのか理解を深めるため、授業でスーパーやコンビニなどで自分の情報がどのように活用されているのか考える時間を継続して取り入れる。 ・情報モラルを身に付けさせるため、日頃よりインターネットを使う時の注意点を考えさせる活動を積極的に取り入れる。また保護者に対しても児童とともにインターネットの使い方について考える時間を設定し、使う時の注意点や危険な点を考え、よりよい使い方を考えるように促す。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より低い。 ○基本的人権の尊重の基本的な考え方について確認する問題の正答率が高い。憲法が自分の生活にどのように関係しているのか、具体的に考える活動に取り組んだ成果だと考えられる。 ●租税の役割についてグラフから読み取る問題の正答率が低い。グラフと関連させて現状を読み取ることに課題があると考えられる。	・日本国憲法の3つの柱について理解を促すため、児童にそれぞれの具体的な事例を考える活動を多く取り入れた。今後も継続して行っていく。 ・グラフから読み取る力を育むため、日本の国家予算のグラフから支出や収入は何かが多いのかなど自分の言葉でまとめる活動を積極的に取り入れる。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より低い。 ●その時代の文化を取り上げ、作者を問う問題の正答率が低い。絵画など芸術文化の理解に課題があると考えられる。	・時代ごとの文化を理解する力を育むため、時代背景や出来事をまとめ、なぜその文化が誕生したのかを考える活動を積極的に取り入れる。また、実際の絵画の写真や作者の絵など資料も積極的に用いて学習することで理解を深めたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	70.9	77.7	78.6
	図形	72.5	78.4	74.4
	変化と関係	51.5	58.7	53.0
	データの活用	60.9	69.9	57.2
観点別	知識・技能	71.9	77.5	74.0
	思考・判断・表現	53.2	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

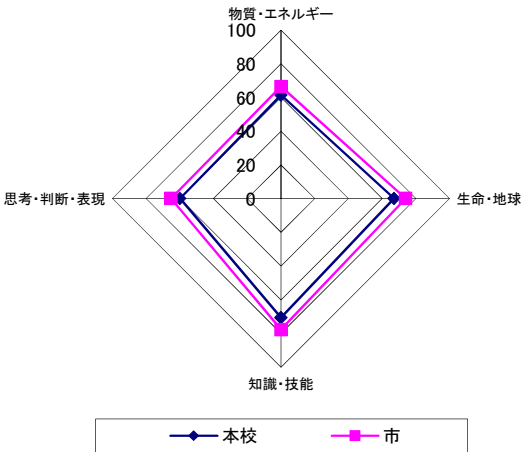
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ●比較量や基準量が分数の場合において、分数倍の比較量を求める問題や、比較量が基準量の何倍になるか求める問題の正答率が低い。文章から場面を理解し、分数を使って立式することに課題があると考えられる。 ●文字を使って、2つの数量の関係を1つの式に表す問題の正答率が低い。複数の文字が表すものやそれぞれの関係を理解し、立式することに課題があると考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・比較量や基準量が整数の場合と、分数の場合の両方の問題に取り組む、立式の仕方を理解できるようにする。 ・文字が何を表しているか理解し、情報を整理して立式できるようにするため、類題に繰り返し取り組む。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○対称の中心についての理解を問う問題の正答率が高い。対称な図形の特徴を振り返り、性質を読み取る問題や作図に取り組んだ成果であると考えられる。 ●2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題や、図に示された四角形の内角の和の求め方を説明する問題の正答率が低い。図形の特徴の理解に課題があると考えられる。	・図形の特徴を理解し、公式を使って面積や角度を正確に求めることができるようにするため、様々な類題に繰り返し取り組む。 ・図形の性質に着目し、式や言葉を用いて、面積や角度の表し方について説明する問題に取り組む。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ●表から面積と人数の割合を求め、最も混んでいる場所を考察する問題の正答率が低く、人口密度への理解に課題があると考えられる。 ●百分率について理解し、割引後の値段を求める式を選ぶ問題の正答率が低い。文章から場面を捉え、必要な割合を求めて立式することに課題があると考えられる。	・表から読み取れる情報をもとに、課題解決に向けて必要な割合を表すことができるように、類題に取り組む。 ・文章を読み、必要な情報を割合で表すことができるようにするため、百分率を使った問題に定期的に取り組む。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ●度数分布表を完成させる問題の正答率が低い。ドットプロットを読み取ることに課題があると考えられる。 ●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録が一番多いわけではないことを説明する問題の正答率が低い。代表値の理解に課題があると考えられる。	・度数分布表への理解を深めるため、ドットプロットを度数分布表に表す問題に定期的に取り組む。 ・表やグラフの特徴について説明することができるようにするため、代表値の求め方を繰り返し確認し、表やグラフの特徴を読み取り、説明する類題に取り組む。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	61.4	66.5	66.3
	生命・地球	67.0	74.0	72.6
観点別	知識・技能	70.6	77.6	78.2
	思考・判断・表現	59.9	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○未知の水溶液を特定する実験の方法を計画する問題の正答率が高い。観察・実験前を行う際には、どのように調べたら学習課題を解決できるのか考えたり、結果の見通しを立てたりすることを重視してきた成果だと考えられる。 ●メスシリンダーの正しい使い方やろ過の仕方を問う問題の正答率が低く、器具等を正しく扱いながら実験を行うことに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・正確に観察・実験を行う技能を身に付けるために、観察・実験器具に触れる機会を増やしたり、機能を理解して操作できるように学習指導の充実を図る。また、目的意識をもって観察・実験に取り組めるようにすることで、児童が器具を使う必要性を実感できるようにする。 ・児童が見通しをもって学習問題に向き合い、自分の考えをもって問題解決を行うことができるようにするために、仮説を立て、観察・実験計画を立てる段階の指導の充実を図る。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より低い。 ○対照実験の目的を指摘する問題の正答率が高い。学習問題を解決するための実験方法について考え、結果の見通しを立てることを重視してきた成果であると考えられる。 ●月の形から、太陽がある方位と観察した時刻を指摘する問題の正答率が低く、学習した内容と身近な自然事象とを結び付けて考えることに課題が見られる。	・学習内容と身近な自然事象とを結び付けて考えることができるようにするために、学習したことが生活の中で確認できる場面を話し合ったり、紹介したりする場面を設定するようにする。 ・モデル実験等で体験的な活動を増やし、実感を伴った理解を図る。

宇都宮市立雀宮南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的な知識・技能の定着	朝の学習やスマイルネクストドリルの活用による漢字・計算の反復学習や、習熟度別学習やICT機器の活用による個に応じた指導を通して、基礎・基本の定着を図る。	学力の定着については市の平均を下回るものの、復習やテストのやり直し、家庭学習に対しての意識の高まりが見られるようになってきた。
協働的な活動の場の設定	考えを広げたり深めたりするために、ペアや小集団など、ねらいに応じて学習形態を工夫したり、ICTを効果的に活用したりする。	話し合いに自分から進んで参加し、ものごとをいろんな視点や立場から考えているという意識の高まりが見られるようになってきた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・引き続き、基礎・基本の定着に向けて、場の設定（朝の学習・家庭学習）や方法（ドリルやタブレットの活用など）を工夫する。
- ・思考力の向上に向けて、「教科の特質に応じた見方・考え方」を意識した指導者の意図的な働きかけや、協働的な学びを取り入れるなどの学びの形態を工夫する。
- ・主体的に学習に取り組むことができるよう、児童の学びの過程を重視したり、児童に学ぶ意義を感じさせる学習問題を設定したりする。